

2025年2月14日

各 位

会 社 名：ウインテスト株式会社  
(コード：6721 東証スタンダード市場)  
代表者名：代表取締役 姜 輝  
問合せ先：経営企画室長 鎌田文明  
(TEL：045-317-7888)

### 棚卸資産評価損、営業外損益及び特別損失に関するお知らせ

2024年12月期第4四半期連結会計期間（2024年10月1日～2024年12月31日）における棚卸資産評価損、営業外損益及び特別損失に関しまして、下記の通りお知らせいたします。

#### 記

##### 1. 営業外収益（為替差益）の計上取り消しの件

当社グループは、2024年12月期第3四半期連結累計期間において、為替差益 9,014千円を計上しておりましたが、決算処理において当該為替差益は連結会社間での取引により発生したものであることが発覚したため、当該為替差益を連結決算上取り消す処理をいたしました。

当該処理により、2024年12月期第4四半期連結会計期間（2024年10月1日～2024年12月31日）において為替差益は 9,014千円のマイナスとなり、2024年12月期連結累計期間における為替変動による為替差益は発生していません。

##### 2. 棚卸資産評価損（売上原価）の計上

近年、業界全体において市場環境が変化しており、特に受注の伸び悩みが見られる状況が続いております。当社におきましても、一部製品の市場動向を慎重に精査した結果、保有する棚卸資産の一部について、将来的な回収可能性について精度を高めて評価する必要があると判断いたしました。これに伴い、監査法人とも協議のうえ、適正な会計処理を行うために棚卸資産評価損 574,470千円を2024年12月期第4四半期連結会計期間（2024年10月1日～2024年12月31日）において売上原価に計上することといたしました。

これは、「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号）に従い資産評価の健全性を確保するために実施するものであります。今回の評価損計上により、短期的な財務指標には影響が出るものの、これは将来的な財務の健全性を確保し、持続的な成長基盤を強化するための戦略的な判断であります。当社は今後も、事業構造の見直しや市場ニーズに適した製品戦

略を推進し、収益性の向上を図る施策を進めてまいります。当該棚卸資産に関しましては、2025年以降出荷される製品にすべて組み込む予定であります。

### 3. 営業外費用（支払利息）の計上

当社グループは、2024年12月期第4四半期連結会計期間（2024年10月1日～2024年12月31日）において、国外の法人からの借入、また、国内の銀行及び法人からの借入に伴う支払利息として3,289千円を営業外費用に計上いたしました。

なお、2024年12月期第3四半期連結累計期間において、支払利息 8,160千円を計上していたため、2024年12月期連結累計期間の支払利息は11,450千円となりました。

### 4. 特別損失（減損損失）の計上

当社グループは、当第4四半期連結会計期間（2024年10月1日～2024年12月31日）において、当社が保有する固定資産について、直近の損益状況に鑑み、減損の兆候が認められると判断し「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき減損会計基準を適用し、合計で1,642千円の減損損失を計上しました。

なお、2024年12月期第3四半期連結累計期間において、減損損失 7,686千円を計上していたため、2024年12月期連結累計期間の減損損失は9,328千円となりました。

### 5. 業績への影響について

上記の棚卸資産評価損、営業外損益及び特別損失の業績への影響については、本日公表の「2024年12月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」をご参照ください。

以上